静岡理工科大学附属図書館　No. 64　June, 2019

図書館だより

Shizuoka Institute of Science and Technology Library

TOPICS

1．県内大学図書館 学生協働交流会に参加

3 月 11 日、常葉大学の草薙図書館でおこなわれた静岡県内の大学図書館で活動する学生協働団体の交流会に、ＬＡの学生が参加しました。

この会には、図書館の活性化や読書推進などのために図書館で活動している常葉大学、静岡文化芸術大学、本学と、3 大学の学生団体のメンバー7 名が参加し、自己紹介を兼ねたビブリオバトルでコミュニケーションを取った後、それぞれの活動の紹介や、活動する上での悩み・課題の共有、その解決策の検討などを通じて交流を行いました。

このような学生間の交流会は初めての開催であり、学生たちにとっては交流会としてだけでなく、県内他大学の図書館を見学し、学生の活動の様子を知ることができる貴重な機会ともなりました。今後もこのような機会を設け、お互いに刺激しあってそれぞれの活動の活性化につながることを期待しています。

2．学習支援活動開始　－図書館コンシェルジュ－

Excel 講座　初級編

令和元年 5 月 6 日～7 月 30 日、図書館内コンシェルジュコーナーにて学生による学習支援を行っています。今期は、建築学科 3 年生が初めてコンシェルジュに加わり、総勢 9 名で活動を開始しました。建築学科生の図書館利用促進や建築系科目等の学習支援につながることを期待します。

5 月 30 日･31 日にはコンシェルジュ主催による 「Excel 講座・初級編」を開催し、9 名の学生が参加しました。オート（フィル、SUM）やショートカットキーなど基本的な使い方を講義しながら、他スタッフ 2 名が理解状況を確かめながら個別にもフォローするなど、主催者側・受講者側ともに熱心に取り組んでいました。

3．新「館長の本棚」を設置しました

今年度より図書館長に就任された小林久理眞先生、副館長に就任された小栗勝也先生の著作及び推薦図書を集めた特設展示「館長の本棚」を設置しました。

・小林先生：研究テーマ「硬質磁性材料」
　著作『したしむ電磁気』『次世代永久磁石の開発最前線』ほか
　推薦図書『歴史の話』『薔薇の名前』ほか

・小栗先生：研究テーマ「近現代日本政治史」
　著作『満州事変の衝撃』
　推薦図書『福沢諭吉集　福翁自伝/福沢全集緒言』
　　『永遠の０（ゼロ）』ほか

学生に読んでほしい本を推薦図書として挙げていただきました。研究分野の図書をはじめ、小説、歴史など幅広い分野から推薦していただいています。この機会に是非読んでみてください。

読書への羅針盤

松田 崇 先生（情報デザイン学科）に聞く

「物語の経験だけが本じゃない」

「見た目に関することが好きで視覚を使ってやりとりを面白く・魅力的にしたい」と語るのは、この学校には多くないアートに造詣の深い松田崇先生。先生は一体どんな本と共に人生を歩んできたのでしょうか。研究室にお邪魔しました。

まず、松田先生はどの様な子供だったのか伺うと「家にこもるのが大好きなひきこもり！」だったそうで…それは、親に「遊びに行って来い！」と無理やり玄関に押し出され、それでもどこにも行きたくなくて庭から帰ってくるほど。そんな松田先生は家でどんな本を読んでいたのか伺うとなんと「本は読まないタイプ」だそうで。強いて言えば「銃夢(ガンム)」という漫画にはまっていたそうです。銃夢…あまり聞き馴染みの無い人も多いと思いますがこれ、ハリウッド映画の「アリータ」の原作となった漫画なんです。本を読んでいないのなら一体日頃はどんなことをしているのか聞いてみると「ゲームブック」でよく遊んでいたそうです。ブック！本！でもゲーム？ゲームブックは読み手の選択によってストーリーが変わる本のことです。実は図書館の英語多読の本にもあるゲームブックなのですが、これを読んでいたという返答はこの大学の他の先生に聞いてもおそらく返ってこないでしょう…さすが視覚とコミュニケーションを専門にする先生ですね！

そんな松田先生がおすすめする本は？一般的な小説の様な本は今も読んでいないので「読んで欲しいと思う本が実は無い」と言われてしまったのですが、「強いて挙げるならデザイン関連の業界に関心があれば関連団体が発刊している広告&CM 年鑑や ACCCM 年鑑、Graphic design in Japan や日本タイポグラフィ年鑑などの書籍から、プロの作品を知ることで世界が広がるのではないか」と話してくださいました。また、読み物ではありませんが松田先生がお気に入りの２冊の”本”を紹介していただきました。1 冊目はデザイナーの松田行正氏著の「ZERRO(ゼロ)」。これは世界中にある様々な文字や記号を載せた本です。この本は装丁もとても凝っている本で、見てみると紙質を感じられる表紙であったり、閉じた時にページが表紙と同じ色になるように染められていたり…という感覚的な楽しさを感じる本でした。2 冊目は中国のサンスクリットの経典です。原典をそのままスキャンして複写した本でした。これもまた凄いのはその装丁で、その見た目だけでまるで一つの芸術品のようでした。

最後に松田先生から見たこの大学の学生について。「原石としては素晴らしいが自覚が無い。それぞれ良いものを持っているので、いろんなものを見たり触れたりして自覚を持って欲しいです。」という評価をいただきました。自分の強みを見つけるために、図書館もお手伝いできると思いますのでどんどん活用してくださいね。

【所在】
『広告&CM 年鑑 2018』　西閲覧室 674.3 / Ko44
『ACCCM 年鑑』　参考図書 674.6 / Z3
『Graphic design in Japan』　参考図書 727 / N71
『日本タイポグラフィ年鑑』西閲覧室 727.8 / N71

インタビュアー：コンピュータシステム学科3年　鈴木彩夏　　記録・記事：コンピュータシステム学科3年　竹中あいな

私の選んだ一冊

『アンマーとぼくら』　有川浩 著

休暇で沖縄に帰ってきたリョウが、親孝行のために、ツアーガイドだった２人目の母と共に島内を一緒に観光する中で、亡くなった１人目の母や父のことを思い出し、自分のことを見つめ直すことになるお話です。リョウに自分を投影して読んでください。そして、この本を読み終わった後に、原案となったかりゆし 58 の曲「アンマー」を聞きながら、今の自分がやりたいこと、自分を応援してくれた人のことを考えてみてください。

電気電子工学科（卒業）　樫本敬亮

『僕はロボットごしの君に恋をする』山田悠介 著

2060 年、日本では人型ロボットを使った国家的極秘プロジェクトが進んでいた。主人公である健は、人型ロボットを遠隔操作して街のパトロールをする職務についていた。ある日、健が思いを寄せる女性咲の勤務先にテロ予告が届いた。彼はテロを防ぎ、咲を守ることができるのか…？

主人公の恋の結末も見どころですが、将来技術系の職に就きたいと考えている人は、ロボットに関する法律にも注目して読んでいただけるとより一層楽しめると思います。

機械工学科３年　大石義貴

齋藤 明広 先生（物質生命科学科）の
一 手 指 南

推 薦 図 書

『てんのじ村』　難波利三 著　（文春文庫）

『小事典・微生物の手帖　８３の謎をさぐる』エコ・ミクロ編（講談社 ブルーバックス）

『大地の微生物世界』 服部勉 著（岩波新書）

最近、“気ままな読書”をしていない。本屋をプラプラすることもほとんど無いし、偶然見かけた本を気軽に読むことも無い。その時間があるなら他のことを、と考えてしまう。もちろん、専門書とか、大学教育に関わる資料とか、学術論文は、読んでいるし、楽しい。その他、仕事で読まねばならないものも読む。その分、少しは見識も広くなっているに違いない。でも、“気ままな読書”はしていないように思う。そんな読書をしたのは「『忍びの国』和田竜（新潮社）」が最後だったか、「『海賊とよばれた男』百田尚樹（講談社）」だったか、とにかく遠い…。仕事とプライベートのバランスが整った環境にいるのに、恥ずかしい。人付き合いも読書と同じようになってしまっていないだろうか、なんて思ってしまう。本稿では、“気ままな読書”で出会ってきた本の中から、私の人生に影響を与えた３冊を紹介したい。

1冊目は、高校１年生の時に出会った本だ。当時、文学の年表に出ているような作家の文庫本をぽつぽつ読んでいたが、たまたま、バス停近くの本屋で平積みになっている「直木賞受賞」の帯が付いた「『てんのじ村』難波利三（文春文庫）」と出会った。国鉄（今のJR）に務める若者が、趣味の芸をたまたま演芸場で披露したことをきっかけにプロの芸人を志し、地味な芸人としての人生を全うする話だ。関西やお笑いに興味があったためか、立ち読みして気に入ってすぐに小遣いで買った。安定した国鉄の職より芸人を志すなんて面白い、と思った。本書に描かれている主人公“シゲル”の生き方は、今も時々思い出す。きっかけがあれば思い切って挑戦する、そして、志したからには愚直に精進し続ける、ことである。芸人を選んだ自分の人生に、いろいろな意味で折り合いをつけることができている“シゲル”のメンタルの強さも、印象深い。

もう１冊は、高校３年生の時に出会ったブルーバックスシリーズの「『小事典・微生物の手帖　83の謎をさぐる』エコ・ミクロ（講談社）」である。様々な微生物がオムニバス形式で紹介されている本著と出会って、当時の私は微生物に興味を持ち、エコ・ミクロこと「服部勉」の氏名と所属を頭に叩き込んだ。そんな時、両親の買い物に付き合って訪れた田舎のショッピングセンターの小さな本屋で出会ったのが「『大地の微生物世界』服部勉（岩波新書）」である。この本との出会いが無ければ今の私は無い。前掲の本の“シゲル”ではないが、私はこの本に感激して、服部勉先生に弟子入りし、土壌微生物について学び、研究するようになった。

やはり、“気ままな読書”はするべきだ、と思う。

【所　在】
『小事典・微生物の手帖』西閲覧室　465 / E44

新着図書紹介

そのほかの新刊情報は▶図書館 Web サイト＞蔵書検索＞カテゴリ検索＞新着リスト

Pythonと実例で学ぶ機械学習 識別・予測・異常検知：福井健一著，オーム社

Factfulness：10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣 ハンス・ロスリングほか著，日経BP

院政：天皇と上皇の日本史：本郷恵子著，講談社

孤立不安社会：つながりの格差、承認の追求、ぼっちの恐怖，石田光規著，筑摩書房

スタンダード分析化学：角田欣一，梅村知也，堀田弘樹共著，裳華房

ほぼ100円飯：家にある材料でソッコー作れる最高に楽しい節約レシピ リュウジ著，KADOKAWA

イノベーションデザイン 博報堂流、未来の事業のつくり方：イノベーションデザイン編集会議著，日経BP

天才の思考：高畑勲と宮崎駿 鈴木敏夫著，文藝春秋

日本語と西欧語：主語の由来を探る：金谷武洋著，講談社

シーソーモンスター：伊坂幸太郎著，中央公論新社

図書館長からの挨拶・メッセージ

図書館長　小林　久理眞

図書館には多くの思い出がある。小学校から高校までの図書室から始まり、書斎代わりに利用した大学の図書館、公立の市や都の図書館まで、長い時間を書物に囲まれた空間で過ごした記憶がある。それと、私にとって強烈な印象が残っているのは、アイルランドのトリニティ・カレッジで研究員をしていた期間の、同大学の図書館である。1か月に1回は必ず訪れていた、「古い図書館」（事実、そういう名前であった）の入館料は、当時は5ポンドで、決して安くはなかった（ランチ代ぐらいにはなった）。しかし、古色蒼然とした木製の立派な書庫と天井、左右に並ぶアイルランド出身の世界的人物の胸像、そこには「ガリバー旅行記」のスウィフトの像もあった、が思い出される。

図書館は、なぜ独特の雰囲気を持つかと考えると、もちろん「本」、書物が、たくさん並んでいるからである。よく、書物どうしが小さな声で話し合っている、と表現する人がいるが、そのことは私にとって、明白な真実である。古代のアレキサンドリアの図書館から、現代のトリニティ・カレッジの図書館まで、ヒソヒソ声で話し合う書物の声が、この世界に文化や芸術を広げて行っているように感じる。

考えてみると、弘法大師は唐から千巻ほどの経典を持ち帰った、とされているが、持ち帰った時点では、それらはただの（大師様が大量の砂金で集めたと思われるが）紙や布の集まりであった（パピルスや羊皮紙ではないと思う）。しかし、それらの経典が、長い時間かけて日本中に広げて行った知識や、影響は、それらの書物の小さな声の響きと、その反響が成した技と感じる。ということは、人間は書物の声を聴く耳を持っているのである。それは、あなたや私が生来持っている耳である。

樹は樹齢が100年を超えると「魂」が宿る、と言われる。本学の図書館は、その意味では、まだ魂は宿っていない。つまり、これからである。どのような魂が宿るのかは、今後の図書館が、どのように発展して行くのかにかかっているように思う。図書館が育ち、よい魂が宿るには、そこにやって来る人々が、静かに、書物のヒソヒソ話に耳をすまして、聞き入ることが必要だと思う。

LIBRARY CALENDAR

開館時間：9：00～20：00　9：00～18：00　9：00～16：00　休館日：

6 月						
日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	・	・	・	・	・	・

7 月						
日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・

8 月						
日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
・	・	・	・	・	・	・

9 月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・

- 7月15日（月･祝）は授業日につき開館　9:00～18:00　｜　● 8月3日(土)は試験期間中のため開館　9:00-16:00
- 8月6日（火）～9月24日（火）までの開館日の開館時間　9:00～18:00
- 【休館】 8月9日（金）～15日（木）まで大学夏期休業のため休館
- 【休館】 9月2日（月）、9日（月）は大学指定休日のため休館

【編集後記】４月～７月にかけ、全新入生にフレッシュマンセミナーの中で「図書館ガイダンス」をおこなっています。図書館の使い方や資料の探し方を早いうちに身につけ、これからの学修に役だててもらえるよう、楽しく取り組めるように職員が頭を捻って蔵書検索の練習問題やクイズを用意しています。受講前でも、わからないことがあったら気軽にお尋ねください。

静岡理工科大学図書館報　No.64　2019年６月 1日発行
編集・発行　静岡理工科大学附属図書館　〒437-8555 袋井市豊沢2200-2
TEL: 0538-45-0231, FAX: 0538-45-0230, URL: http://www.sist.ac.jp/lib/,　E-mail: tosyokan@sist.ac.jp